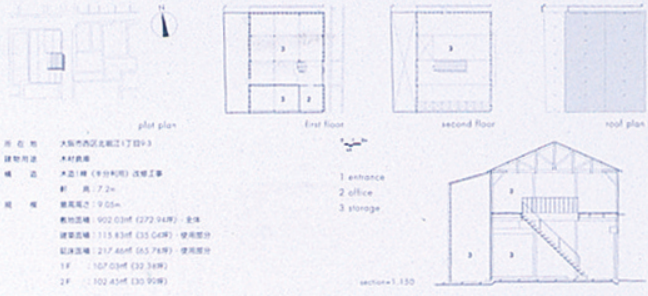
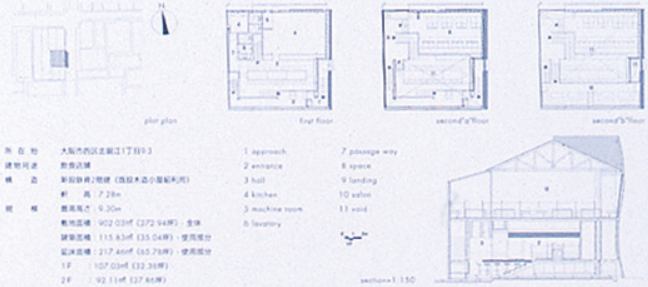
beans dining soya

existing plan

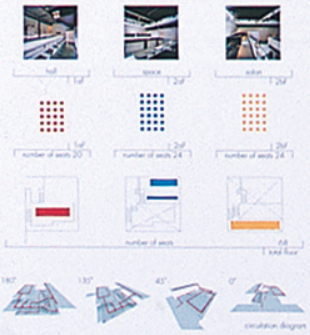


所在地　大阪市西区北堀江1丁目9-3
建物用途　木材倉庫
構造　木造1棟（半分利用）改修工事
軒高　7.2m
規模　最高高さ：9.05m
敷地面積：902.03㎡（272.94坪）・全体
建築面積：115.83㎡（35.04坪）・使用部分
延床面積：217.46㎡（65.78坪）・使用部分
1F　：107.03㎡（32.36坪）
2F　：102.45㎡（30.99坪）

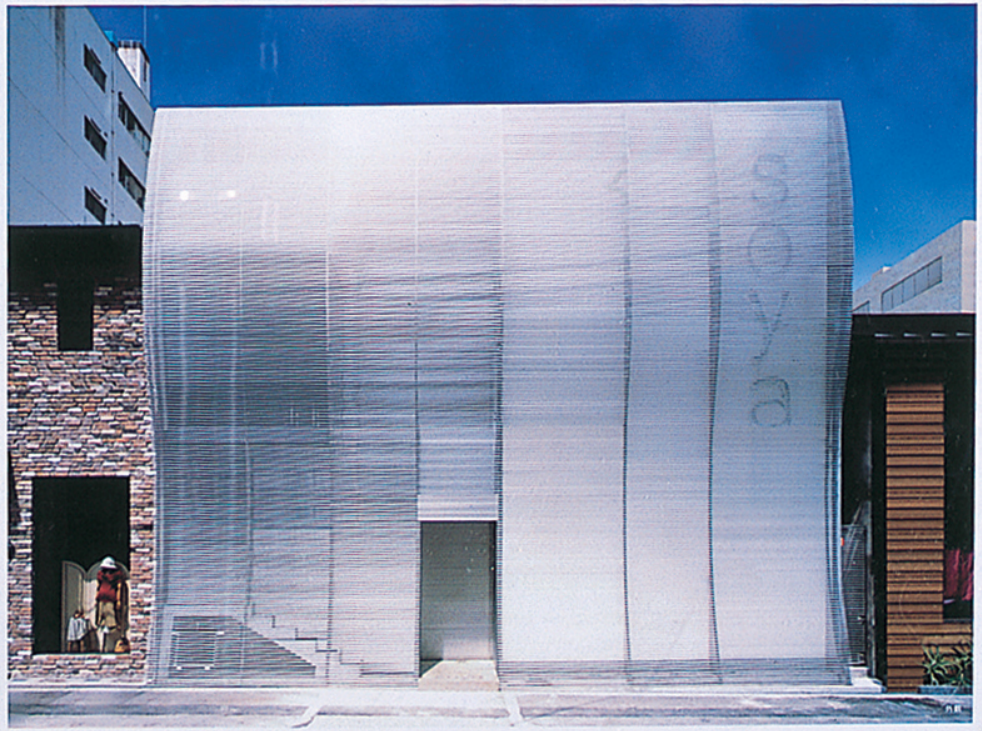
conversion plan



所在地　大阪市西区北堀江1丁目9-3
建物用途　飲食店舗
構造　新設鉄骨2階建（既設木造小屋組利用）
軒高　7.28m
規模　最高高さ：9.30m
敷地面積：902.03㎡（272.94坪）・全体
建築面積：115.83㎡（35.04坪）・使用部分
延床面積：217.46㎡（65.78坪）・使用部分
1F　：107.03㎡（32.36坪）
2F　：92.11㎡（27.86坪）



造形の美しさ力強さ街に創造する

「ソヤ」は豆を原点においた飲食店である。かつて北堀江に建設された大きな倉庫群の一棟である桁行21.5m・梁間8.1m、木造切妻屋根2階建ての倉庫半分を店舗として使用した。このような既存物件を利用する場合、合理的な投資により商業施設の経営を進めるという命題に対して、私たち建築家はどのような解釈と手法をもってリノベーションするかを問われる。まず既設建物を分割された二つの空間として仮想し、水平に分断されている床を撤去した。構造上の問題から既設柱に補強柱を寄り添わせ、二つのフロアエリアに設置された架構は古い建物構造の強度を増う。二つのエリアにできた相関する部分を吹き抜けとすることで開放空間を確保しスキップフロアで構成した。視線上をクロスする静と動との関係性を表現するために、フロアのレベル差により生まれる抽象化された領域を設定した。梁やスラブを極力薄く抑えることで、既設の小屋組みの重みと新設の鉄骨の繊細さとの対比により、互いの骨格のよさが引き出された空間が創出される。本来飲食という行為のためにつくられた空間ではあるが、ニュートラルにしつらえることによって多用な可能性が生み出せる。それはたとえばコレクションのパーティー会場であったりアーティストによる時限的な美術館であったりと、情報を発信する装置の一部となる可能性を持ち合わせている。

外観となるファサード部分は内部構成から導き出されたスクリーンで形成される。全体高さの中間値で半径点を設けた半径10mの緩やかなうねりを持つアールラインをアルミルーバーによるダブルスキンで構成した。"SOYA"は一見、意匠を競い合う主張性の高い建築と解釈され得るが、人の行む場を覆うこの空間での商業的な経済活動や都市的な視点(歴史・文化・地域性・街並特性)など、建築周辺との関係性の連鎖から生まれた5年間限定の建築空間である。